

第13回世界ビルメンテナンス大会 オーストラリア・シドニーで開催

世界から 18 カ国 600 名のビルメン人が参集

各国のビルメンテナンス業者が2年に一度、一堂に会する世界ビルメンテナンス大会が去る2000年11月12～16日の5日間にわたりオーストラリアで、開催されました。この大会は、日本、アメリカ、英国など16カ国にある各国ビルメンテナンス協会が組織する世界ビルサービス連盟(WFBS C)が主催するもので、1979年のスイス・ベルンでの創立大会に始まり今回で13回目。今回はオーストラリア協会がホスト協会となって、オリンピックの熱気さめやらぬシドニーを舞台に開催されました。



シドニーでは第5回大会(1984年)以来、2回目の開催。今回のテーマは「トータルサービス—変化と革新の中で創られる顧客との信頼関係」で、18カ国から約600名のビルメン人が参集しました。全国ビルメンテナンス協会は、第1回大会以来毎回、参加してきましたが、今回も日本代表团(団長・梶野善治全国協会会長)を組織し、大会に臨みました。大会では恒例のビジネスプログラムや各種のイベントを通して、業界課題を展望するとともに、21世紀に向けた業界の隆盛を誓い合い、5日間にわたる大会は成功裏に幕を閉じました。

初日12日の夕刻より行われた開会式は、斬新な演出で幕を開け、大会会長のロン・ファリンドン世界連盟会長の歓迎の挨拶に続いて、恒例となった日本の厚生大臣メッセージを、厚生省生活衛生局企画課の須田勝吉課長補佐が伝えました。13日は基調講演に続き、これも恒例となった浅地記念講演では講演の由来を全国協会の新木卓副会長が紹介しました。大会の主要行事であるビジネスプログラムはディスカッションの参加者も含めると、各国講師は総勢26名に上りました。



今回の講師は、斯業界の経営者や幹部のほかに、メーカーやコンサルティング会社、人材派遣会社さらに弁護士、著述業といった肩書きをもつ講師など、多彩な顔ぶれとなりました。従って、講演の内容は斯業のみでなくサービス業さらに全産業に通ずる経営課題、企業戦略の今後のあり方などを示唆するものも多くありました。また、メインテーマにあるように、単一業務の提供だけでなく、顧客ニーズを把握し、サービスの拡大を求める発言が目立ちました。中でも、「将来の雇用動向」をテーマしたビジネスプログラムでは各国か



らの報告とともに、日本から北川 幸全国協会副会長が日本の雇用問題について、現況を報告。北川副会長は、斯業が提供する「商品」は「サービス」すなわち「ヒト」であるという前提で雇用問題を考えるべきであり、建物所有者などのユーザーが求める確かな技術力とサービス精神を併せ持った労働者を確保しなければならないと、訴えました。さらに、日本からの要望で企画された「ジャパンフォーラムー日本の挑戦、世界の経験」では、梶野善治全国協会会長が、①各国の官公庁の入札・契約方法、②清掃の品質評価・官公庁による検査、③協会（組織）のあり方の3点について、米国・英国・オーストラリア・韓国の各国講師にそれぞれの状況を聞きました。最終日16日の閉会式では、世界連盟役員就任式が行われ、次回大会を主宰する英国協会のイアン・スチュアート氏が新会長に就任。また、日本からは新木副会長が引き続き連盟副会長に、小畑 悟全国協会国際委員長が理事に就任しました。大会は2002年5月に第14回が開催される英国・スコットランドのエジンバラでの再会を約束して、閉幕しました。



以下は、大会プログラムと日本の厚生大臣メッセージ。

■大会概要■

1. 開催期間 2000年11月12日～16日
開催場所 オーストラリア・シドニー
2. 会議会場/シドニー・コンベンション・センター
3. 大会テーマ
『Total services—profit by partnering through innovation and change』
(トータルサービスー変化と革新の中で創られる顧客との信頼関係)
4. 国別参加者数 18カ国 計569名(同伴含む)
5. アルゼンチン…2、オーストラリア…136、ベルギー…10、ブラジル…1、カナダ…10、デンマーク…15、フランス…7、ドイツ…16、インド…2、日本…207、オランダ…45、ニュージーランド…25、ポルトガル…5、韓国…24、スウェーデン…1、タイ…1、英国…36、アメリカ…26

■大会プログラム■ (【 】内が大会公式行事)

<11/11>

12:00～・日本代表団結団式

<11/12>

17:30～【開会式及び歓迎レセプション】

・厚生大臣メッセージ

<11/13>

8:45～【ビジネスプログラム】

・基調講演「生き残りをかけた計画」



・浅地記念講演「業界の展望」

記念講演の由来を紹介：新木 卓

・講演「人的資源」

・ディスカッション「将来の雇用動向」

【資機材展示会（AUSCLEAN2000）】

<11/14>

8：45～【ビジネスプログラム】

・講演「顧客満足の維持」

・ディスカッション「サービスの提供」

・講演「ビジネスを成功に導く情報技術の活用」

・講演「協力関係/友人か敵か」

19：00～【オーストラリアンナイト】 <11/15>

8：45～【ビジネスプログラム】

・講演「オリンピックケーススタディー」

・ディスカッション「経営リスク」

・ジャパンフォーラム「日本の挑戦、世界の経験」

18：00～【英国イブニング】

<11/16>

8：45～【ビジネスプログラム】

・ディスカッション「世界の動向」

・ビジネスプログラムの要約

12：00～【任命式及び閉会式】

13：30～・日本代表団解団式

19：00～【フェアウェルディナー】



■ 厚生大臣メッセージ ■

20世紀最後のオリンピックが行われた、ここオーストラリア・シドニーにおいて、トータルサービスをテーマに、「第13回世界ビルメンテナンス大会」が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。また、本大会に我が国から多数の代表団を派遣することができ、私のメッセージを皆様方にお伝えできることを大変光栄に存じます。

さて、近年の建築物の大型化、高層化及び多様化に伴い、人々が「ビルディング」の中で過ごす時間も飛躍的に増大しており、人々の生命と健康を守り、快適性を保つために、ビルの衛生的環境の確保の重要性はますます増大しております。

日本におきましては、1970年に「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」を制定し、以来、多数の人々が使用する建築物の衛生水準の維持向上に努めてまいりました。その結果、関係者の御協力と相まって、日本においてはシックビルシンドローム等の問題発生がこれまでほとんどみられなかったということは、世界的にも高く評価されているところであります。

しかしながら、最近では、建築物の建材等に使用される様々な化学物質や微生物等の人体に与える影響が懸念されはじめ、ビルメンテナンスの立場からもこの問題に如何に対処すべきかが重要となってきております。

このように、ビルメンテナンスの業務が建築物の維持管理にとどまらず、疾病を予防し、安全で快適な環境を提供する建築物の総合管理の業務に発展しつつある現在、今回の大会において、まさに「トータルサービス」のテーマのもと、世界中の各都市のビルにおいて、その総合的管理業務に熱心に取り組んでおられる方々が、こうして一堂に会し、国際的な視野から研究成果の発表や知識、情報の交換を活発にされることは誠に意義深いものであります。

最後になりましたが、ここに参集の皆様方が本大会において多くの成果を挙げ、各国代表団の相互の友好と連携を深められ、今後のビルメンテナンスの発展に大いに貢献されることを切に希望するとともに、本大会の開催にあたり多大な御尽力をいただいた、世界ビルサービス連盟を始めとする関係各位に対して、深く敬意と謝意を表し、私のお祝いのメッセージとさせていただきます。

2000年11月12日
日本国 厚生大臣 津島 雄二